

Takashima Toujyu Kai

会報

No. 32
2023.5.15

高島藤樹会

(題字は、竹脇曇卿先生によるものです)

発行
NPO法人 高島藤樹会〒520-1224
滋賀県高島市安曇川町上小川225-1

藤樹書院・良知館内

電話・FAX 0740 (32) 4156

http://takashima-tojukai.com/

村井弦斎の

『近江聖人』について

東洋大学名誉教授 吉田公平



村井弦斎の

『近江聖人』は

明治二十五年十月十六日に博文館から発行された。村井弦斎

二十九歳の時である。編修兼発行人は大橋新太郎。博文館のオーナーである。「諸名家編著、少年文学」三十二冊の内の十四編である。定価十二銭。小生の手元にあるのは大正二年四月十五日発行の十二版である。売れに売れた。博文館の出版活動は最も旺盛な時期であった。小生の掌中にある『近江聖人』の表紙裏に「木村光徳」という署名がある。中江藤樹の研究に謹しまれ、日本藤樹学会を再建されて熱心に顕彰活動をされた先生である。木村光徳先生は広島県呉市にお住まいであった。高等学校の先生を務めながら中江藤樹にゆかりのある地域に資料調査に出かけられて精力的に研究を進められた。先生の研究成果としては大著が二冊ある。小生が広島大学に赴任したことが機縁となつて教を乞う

た。その先生の署名入りの『近江聖人』が落掌したのは、先生に直接いただいたのか、或いは古書店で入手したのか、今は忘れてしまった。

『近江聖人』は目次はないが、次の五章からなる。「輝(あき)お痛(いた)はしや」「習わぬ度(母の為)」「孝の徳(人を化す)」「聖人様(生きた神様だ)」「王者の師(上に屈せず下に驕らず)」。総頁は百四十三。紆余曲折の後、輝膏葉を入手する過程、母親に出合いながら母に諭されて大洲に帰る経緯、熊沢蕃山の入門の逸話など、中江藤樹を語る時の山場が見事に構成されている。『近江聖人』の基調は輝膏葉である。読者はこの逸話に魅せられた。村井弦斎は読者の心をつかむ名人であった。しかし、この輝膏葉の逸話は村井弦斎の創作である。中江藤樹の年譜などには輝膏葉の逸話は全く無い。かつて高島市で講演を依頼された時に、後の懇親会では村井弦斎の創作ですとお話したところ、ご高齢の方が「でも、私も、あの輝膏葉の逸話に感動して、中江藤樹先生をお慕いするようにになりました」と述べられた。大方の読者も同じ様に感動したに違いない。

村井弦斎は一八六三年(文久三)十二月十八日に三河国豊橋に生まれ

た。一九二七年(昭和二)に七月三十日に逝去した。享年六十五歳。

村井弦斎は多芸の人であった。一所に留まる事ない。随処に主となり八面六臂の活躍をした。矢野龍溪に見出されて報知新聞などで編集執筆に敏腕を振るった。『近江聖人』は多くの読者をつかんだが、村井弦斎の主著ではない。沢山の著書の中で、さて主著と問われれば『食道楽』であろうか。明治三十六年刊行。売れに売れた。今その復刻版が柴田書店から刊行されている。村井弦斎は百道楽を期したが『女道楽』『酒道楽』『釣道楽』などに終わった。村井弦斎の評伝には黒岩比佐子『食道楽』の人村井弦斎がある。好著である。

お知らせ

藤樹研究の第一人者である吉田公平先生のご厚意で、寄稿いただきました。次号からは、「吉田公平先生のコラム」として連載して参ります。お楽しみにしてください。



ひじりの声 上田 藤市郎

ロシアとウクライナの戦争がまだ続いている。どのような経過を経て、われわれは戦争にまきこまれていくのだろうか。今日そのような兆しが見えてくるようなのだが、最初は、敵国が想定され、それが共通の認識であるかのように着していく。そこで防衛の発想が来る。そのための兵器と兵員、予算の必要性だ。その理由は、国土、国民、つまり自分や家族を守るためなのだから。この意見に反対するのはかなりむずかしい。つまり、愛国心の無い人間、非国民ということになる。この避けられない戦争という論理は、国家主義、全体主義の形をとって拡大するので、戦争に反対する人間は、多数派の中で孤立し肩身の狭い立場に追い込まれる。政府が戦争推進に踏み切ると、情報、教育、経済活動、自治会等の様々な分野で宣伝が推進され、その前に、法律上の特例が発せられる。そのときの法治国家では、戦争に反対する者は、国家反逆者となる。ここで平和主義者はどんな知恵を培い、戦争回避の力量を発揮できるだろうか。それは、幅広い想像力ではないだろうか。戦争は、国家相互すべての人々の生活や人生を悲惨、非道、破壊に追い込むものだ。しかし、一旦、動き出した流れを止めるのは至難の業だ。それが非力であるから、今も戦争が絶えない。

「藤樹かるた」の紹介⑥

(企画広報委員会)

(かるたと解説)

もう一杯を

も ひかえて帰る 村の人

藤樹先生が酒を売って暮らしを立てておられた時の話。村人が酒を買いに来ると、「今日はどんな仕事をなさったか」と尋ね、その仕事の程度に従って「今日はこの位にしておきなさい」と売る量を加減し「もう少したくさん売って下さい」と頼んでも余分には売られなかった。このようにされたので村人は酒を控えるようになり、また、酒代に困るような者はいなくなった。



せ 先生の 徳を学ぶ
立志祭

藤樹先生十一歳の年に、中国の「大学」という孔子の教えを説いた本を読まれ、立志を思い立たれたのになみ、毎年三月七日（先生の誕生

日）に高島市の小学校三年生の全児童が、立志祭を行っている。お話を聞いたり、藤樹読本の感想文を発表したり、藤樹先生に関わる学習をしている。



す 澄みきった 肱の川面に
大洲城

藤樹先生が青年時代を過ごされた大洲の町には、先生が広められた良知と徳の教え見守るように、大洲城の天守がそびえ、ゆったりと流れる肱川の川面に美しく映えている。



藤樹かるた制作委員会委員

足立清勝・飯田典子・石黒紀代子・
北川暢子・清川貞治・高谷美智子・
山本義雄 (五十音順)

今の「藤樹かるた」は、三代目！

六回に分けて紹介してきました「藤樹かるた」は、今回が最終です。平成二十年に制作されたこのかるたは三代目とのことです。このかるたの前身（二代目）は、町村合併の前、昭和五十八年に安曇川町教育委員会が制作された絵入りの歌がらです。

二代目の基になった初代のかるたは、青柳小学校で制作・活用されていた四十四文字にまとめた文字だけの「藤樹かるた」であるとのことでした。残念ながらその実物は確認できませんでした。そこで、二代目のかるたの中から、「と」の札を紹介して、終わりとします。

と 遠く居て
母のあかぎれ 涙あり



「藤樹かるた」の紹介に当たり、当会初代会長の上田藤市郎先生に多大なご教示をいただきました。

藤樹人間学塾…

藤樹思想を学び考え実践する

塾長 田中 清行

「藤樹人間学塾」では、藤樹先生の著書を中心に思想を学ぶとともに、時事問題と組み合わせることで議論しながら考えを深め、日々の生活の場で実践することを目的に毎月開催しています。本稿ではその模様をお伝えいたします。

■一月、第百三十三回人間学塾を開きました。大阪、京都からの参加の方を入れて十名でした。

●テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第四巻 教子報の総論、第一話

●今日のポイント

子供を教育するとき、幼少のときは、行いや戯れなどはその子供に任せ、心が悪く染まらないようによく教えるがよい。成人してからは、明徳を明らかにする工夫に努めさせる。

人間は自分の力でこの世に生まれ出たものではない。宇宙に内在している根本生命の力によつて生み出されたものであるから、この世に生み出された意味を考える必要がある。

●フリートークキング

・「三千年も前に胎教が行われて

いたことに大変驚いた」

・「藤樹先生が、子供はのびのびと育てることが良いといわれていることに感心した」

■二月、第百三十四回人間学塾を開きました。今回は初めての女性二名を入れて九名でした。

●テキスト

『鑑草』の第四巻 教子報の第二話～第四話

●今日のポイント

・孟子の母がはたを切ったのは、孟子の学問探求を願う深い心から出たものである。

・貧困の中にあつて、人としての道を大切にすることは、子が廉直に励むことにつながる。

●フリートークキング



・「心学の教えは大切である。利禄の教えの千倍の価値があるといわれている。二千五百年前の儒教、仏教は人間の本质に関わることを教えている。日本人は宗教心が薄れているのが心配だ」

■三月、第百三十五回人間学塾を開きました。大阪、京都から、そして新しい参加者を入れて九名でした。

●テキスト

『鑑草』の第四巻 教子報の第五話～第七話

●今日のポイント

・人間は、相反する二つが備わって初めて成長していく。慈悲や優しさとともに人を寄せ付けな

いほどの厳しさを持つ。

・人は皆、深いところで大いなる存在と繋がっている。私たちが大宇宙に生かされた存在であることに思いを馳せる習慣を持つ。

●フリートークキング

・「ありとあらゆるものが繋がっている。人間学を学ぶことはとても大切なことだと思う。清濁併せ吞む勇氣も育てていきたい」

■四月、第百三十六回人間学塾を開きました。大阪からの参加者を入

れて十名でした。うち女性二名。

●テキスト

『鑑草』の第五巻 慈残報の序と第一話

●今日のポイント

・継子をわが子と同じように慈しんで育てれば、必ず情が通じて良い親子関係が得られる。

・WBCで世界中の野球ファンを魅了した大谷翔平選手らの侍ジャパン。その侍ジャパンを世界一に導いたのは栗山英樹監督である。彼の思考法は、「艱難辛苦の日々を知恵にする」等々。

●フリートークキング

・「秀吉の妻、ねねが継子を慈しんで育て、継子が彼女を実の親のように慕っていたことが今日の話につながった」

・「栗山監督の話は非常にタイムリーで、彼が古典をよく勉強されていることが興味深かった」

等の意見をいただきました。ありがとうございます。

人間学に関心のある方は是非お越しください。無料です！

藤樹人間学塾 今後の予定

六月三日（土）、七月一日（土）、

八月五日（土）、九月十六日（土）

■時間（原則） 十五時～十七時

■場所（原則） 安曇川公民館

中江藤樹・心のセミナーから

『豊かなひとづくりへの秘策』 〜二宮金次郎の実践から〜

【前編】

親子をつなぐ学びのスペース
リレイト 代表

中桐万里子 先生

今日のお話は、私の先祖二宮金次郎を巡ってということなのですが、高島は二宮家にとって大変ゆかりのある地です。実は金次郎の長男の奥さんは高島の出身で、金次郎はこのお嫁さんを大変可愛がりましたし、お嫁さんも義父の金次郎を大変尊敬しました。私は五代目に当たる祖母の話聞いて育ちましたが、そのように思いますと、なお一層この地でこのようなご縁をいただけるということをお大変光栄に感じます。

藤樹先生との繋がりは内村鑑三氏の「代表的日本人」という書籍に並べられている二人であるわけですが、代表的日本人とは、日本人らしいということとはどんなことなのか。



それは、欧米の人たちが重要だと考える合理性、効率性、科学的なもの、それだけではない何

かと生きている、それが日本人ならではの在り方の一つなのかもしれないと思います。金次郎もそのことをとても大切に人生を生きただけの人でした。

豊かなひとづくりへの秘策。私たちは、幸せになりたい豊かになりたいと日々暮らしていると思います。皆さまは「あなたにとって幸せって何ですか。豊かさとは何ですか。」と聞かれたらどう答えられるでしょうか。意外と簡単には答えられないのではないのでしょうか。あるいは私たちはなんのために働いているんだろう、そんなことを考えてみるのも大事かと思っています。ウィキペディアには、「資本主義社会において労働とは倫理的性格の活動ではなく、やむを得ず行われる苦痛に満ちたもの」と説明されています。確かに「働かなきゃ、お金儲けができない。どうやって生活していくつもりなの」と答えることもあるかと思いますが、日本人は、「はたらく」は「傍を楽にする」とこと仕事そのものに使命感を持つ、喜びを感じているなど、一人ひとりの価値観、人生観を盛り込みながら、一人ひとりが答えを出しているのだと思うわけです。私は小さいころから金次郎というヒーローの話聞いて育った「金次郎オタク」ということもあり、様々

なことを考えるときにどうしても金次郎だったらどうかあと思える癖があります。幸せのこと、働くこと、彼だったらどう考えるのか、そんなお話をしていきたいなあと思います。



金次郎、のちに尊徳（たかのり）と名を変えましたが、「そんなく」の方が一般的かもしれません。小学校の校庭などで薪を

背負って本を読んでいる像がおなじみじゃないかなあと思います。しかし、大きくなってから何をしたらのかは意外と知られていません。金次郎はズバリ農業ということをした人でした。いわゆる農民だったということです。

金次郎が生きていた時代の農業は、異常気象や自然災害が重なったという少し特殊な環境下にありました。なので金次郎は単に自分の田畑を耕すだけでなく、七十年の人生を被災地の復興に充てていきました。関わった町は六百以上だったといわれています。復興に大切なものが二

つあると彼は言います。一つ目は、『人の心の復活』です。頑張っても、頑張っても自然から意地悪をされるようなそんな気分、絶望、努力することの意味が解らない、未来が見えない、不安である、何のための毎日がわからない、心が荒れ、人々は未来への希望が持てなくなっていました。ですから一人ひとりの心が希望を取り戻すこと、やる気に満ちること、未来を信じられることが何よりも大事だったというわけです。つまり『心の田んぼの復活』が何よりも大事だったというわけです。そうはいっても人間は霞を食べて生きていくわけではありません、精神論や気持ちだけで生きていくわけではないのです。どうしてももう一つのもの、当時は米経済と言われている時代ですので、田んぼや畑がちゃんと実るといことです。『経済の復活、実りの復活』ということです。金次郎は『心の復活』と『経済の復活』の二つを担うのが自分の使命だと仕事に取り組みました。

金次郎像が手に持っている本に注目が集まり、読書家、勤勉な子どもだったと思われがちですが、実際の彼は徹底した実践主義者、行動主義者、何よりも実践や行動で現実を豊かにさせていく、そのことにこだわった人だったのです。

大事なのはこの場所と、祖母がいつも指をさしたのは足でした。この像のメッセージはどんな時も挫けず諦めず一歩でいいから足を前に出す、行動をすることを常に大事にしなければということなんです。丹精を込めて耕した田畑が大洪水であつという間に台無しになる、もう絶望的な気分です。それでも一歩から始めよう、瓦礫を拾うこと、一鍬を入れること、そんなふうに小さな積み重ねをしながら復活へと向かおうと、そう励まし続けた、つまりどんなにひどい時でもとかく小さな行動を重ねようという呼びかけでもあるわけです。そして、ようやく田畑が復活してくると多くの人は思います、「やれやれようやく復活した」と。

でもその時も歩みを止めてはいけないと金次郎は言うんです。もう少しこの田んぼをよくできないか、もう少し収穫量を増やせないか、もう少しおいしい作物にできないか。このもう少しという気持ちに貪欲に持ち続けようじゃないかと、いい時も悪い時もこの小さな一歩が鍵になる、そんなふうに言うんです。金次郎はこの「もう少し」に生涯貪欲でした。土木技術の改良、あるいは堰の技術、測量の技術、様々なものを磨きに磨いたそんな人生でもあったのです。まさにこの小さな一歩、そ

れを実践したのが金次郎でもあったわけです。

この姿で町を歩いていた金次郎は村人たちに奇妙な奴、変人、気持ち悪い奴と言われていました。それは皆がやる気をなくし、絶望し、悲しみに打ちひしがれているのに、黙々と懸命に子どもながらにやっていることが薄気味悪いということもありました。もう一つ、読んでいた本は武士が読む本だったのです。自分をわきまえない奴だと思われてもいたんです。でもこの姿を貫きました。ばあちゃんと言いました。「これは優等生になりなさいという像じゃないのよ、人から何と言われようとう思われようと自分にとつて大切なことを貫くということを伝えようとしている姿なんだ」と。「自分にとつて大切なことは何かを考え、それを貫く、それがこの姿に凝縮されているんだ」と言うんです。そして、ばあちゃんは続けました。「だけど困ったことに自分には二人の自分がいる。一人目は自分の都合を考えたくない、悪いことをしたくない、いわゆる悪心といわれる自分、雑草が生えてくるように心の中に生えがちなのだ。そういう悪心は私たちには絶対あるんだ」と。「でももう一つの心も必ず自分の中にある。どんな土地にも花が咲くのと一緒で、自分

の中には良心という良い心もあるんだ。本当の答えは、先生が、社会が、親が知っているわけじゃなくて自分の良心が知っているんだ。だからどんな時でも自分の良心との対話をしっかりとしなさい。金次郎のこの姿はどんな時でも良心を裏切らずに良心を大切に、しっかりと自分を守って行けという姿なんだ」と言われたんです。藤樹先生も致良知の良知という形でおっしゃいますが、この良知とか良心とかいう自分の中に根差しているそれらを信じていくこと、あるいはそれらと対話し、裏切らないこと、心というものを大切にすること、この国の民族らしい考え方のかもしれない。

金次郎は六百の町々を復活しましたが、事情も様々でその計画はオーダーメイドでした。しかし、始まりは必ず同じ方法でした。金次郎らしいやり方だと言えるかもしれない。それはリーダーたちに「あなたは今なにを望んでいるのですか」と問いかけることでした。リーダーたちは、田畑を立て直し、年貢として納められるようになることだと答えます。金次郎は言います。「その考え方では復興は絶対うまくいかない。武士は何をすべきかを考えてほしい」と。そもそも武士とは村人が生活できるように命をかけて戦って

きた者です。「もう一度自分に立ち返って自分の良心と対話をしてほしい」と。金次郎はそのことを『道に還る』こととしました。本当に大事なのは「一人ひとりの心に火を付けること、仲間と共にやっていこうとすること、相手を勇気づけることではないか」と呼びかけました。話を聞いて武士の心も高まり、自分たちができることはまだあるのではないかと考えるようになります。「一見大変なピンチ。しかし武士と村人が繋がる大事なチャンスではないか」と。「しっかりと困っていることに向き合うことができたとき、そこには深い根っこが生まれるのではないか」と言うんです。金次郎自身は相手を支えること、弱みに向き合っていくことが大事にしました。が、重要なのは救済をすることではない、勸業をすることだと強く言うていました。



本年三月二十一日に開催しました「中江藤樹心のセミナー」で、中桐万里子先生にご講演いただきました。その講演内容を淵田豊朗副会長によって文章化され、今号と次号に分けて掲載いたします。

高島市内小学校三年生

「立志祭」に際しての作文

●「立志祭」について

「立志祭は明治四十一年頃から、青柳小学校を中心として実施されてきた歴史ある行事であり、藤樹先生の誕生日である三月七日に、子どもたちは九歳の頃の藤樹先生の思いを知り、今の自分を見つめ、自分の意志をもつための足がかりとしてきた。今もなお、藤樹先生の教えは、人を敬い思いやりの心を育む人間形成にとって大切なものであり、その教えを学び、心を豊かにたくましく生きていこうとする高島の子どもの育成をねらいとして、高島市内の小学校において立志祭を実施する。」(市教育委員会学校教育課)

その具体的内容は学校によって異なりますが、三年生を対象に講話、「大学」唱和、「私の志」発表、藤樹紙芝居、藤樹カルタ大会等々です。今年度、安曇川中学校区では、四年ぶりに合同で開催されました。

また、高島藤樹会では七年前からその「立志祭」において、広報・啓発活動の一環として、「五事を正す」とキャラクター「よえもん君」を印刷したクリアファイルを市内三年生全員に贈呈してきました。立志祭の当日に、当会の理事、もしくは校

長先生から三年生にクリアファイルを渡していただきました。なお、当日「五事を正す」などについてのお話をする時間をいただけた会場もありました。お世話になりました各学校及び理事の皆様、ありがとうございました。

立志祭終了後、四小学校から三年生の作文をご提供いただきましたので、次に紹介させていただきます。

【安曇小学校】

「立志祭に参加して」

西沢 莉心

三年間コロナで地いきの取り組みができていなかったから、こうやって他の学校と交流できたことがうれしかったです。今日はたくさんの方の話をたくさん聞きました。今日学んだことはしっかりと頭に入れて、今後たくさん生活に生かしていきたいと思いました。またこの勉強をして藤樹先生にちなんだことをたくさん知ることができたので、良かったです。

「藤樹先生から学んだこと」

中村 和奏

藤樹先生から学んだことは、全部覚えて意識していきたいです。五事を正すについての話を聞いて、「そういえば、五事を正すっ

てあまりできていなかったかも。」と反省したので、これから気をつけていきたいです。致良知や孝行も大切にしていきたいです。特に、致良知が心に残ったので良く覚えておきたいです。孝行は普段も少しだけできていたかと思うので、これから今までより頑張りたいです。



藤樹書院でお話を聞く

【青柳小学校】

「立志祭に参加して」

川崎 遥斗

立志祭の会場に行くと、保育園が同じだった友達を見つけた。遠くで声はかけられなかったけど、嬉しくなりました。ぼくはみんなの志の発表を聞いて、ぼくの志と同じ「サッカー選手になりたい」という人がいて嬉しかったし、もっと練習を頑張ろうと思いました。

ました。

藤樹先生から「孝行」「五事を正す」「知行合一」を学びましたが、ぼくはとくに「孝行」を大切にしたいと思いました。

「藤樹先生から学んだこと」

岡本 雫葉

立志祭では「孝行」という言葉をくわしく知りました。孝行は親だけではなく自分や周りの人や物に関わる人の心も大切にすること、心が分かりました。私は「五事を正す」の貌言視聴思をはじめて聞いた時は、この言葉は何のことかさっぱり分からなかったけど、意味を聞いたらとても大切なことだと思いました。私はこの貌言視聴思の中でも特に「言(思いやりのある言葉で話しかける)」を大切にして、優しい人になりたいと思います。

【本庄小学校】

「わたしの思い」

保木 勇人

▼立志祭に参加して▲
とうじゅ先生の話をたくさん知ることができました。「五事を正す」や「致良知」「孝行」など、おもしろいけれど大事なことをいっぱい教えてもらいました。一月からとうじゅ先生のすごいこと



藤樹先生の墓地前でお話を聞く

ろを調べて、本庄フェスタでその八まで発表しましたが、すごいところはもっとありました。

志の発表は、ステージに上がって、どきどきしたけれど、大きい声を出せたので、毎日練習してよかったなと思いました。

とうじゅかるたもしました。青やぎ小学校や安ど小学校の人と仲良くなれて、うれしかったです。楽しい立志祭でした。

▼藤樹先生から学んだこと▲

ぼくは、とうじゅ先生から、ぼくが気づいていない大事なことを教えてもらいました。「人を差別しない、みんな大切にする。」「できなくても、あきらめないでつづけていける。」「と学びました。とうじゅ先生はみんなに愛されていて、本当にすごい人だと思いました。

【新旭南小学校】

「とうじゅ先生のことをよく学べた」

い出 七海

わたしは今日とうじゅ先生のことについて、ほう木先生がくわしくおしえてくださいました。とうじゅ先生は、いつ、どこで生まれたかや米子から大洲へうつりかわったことや馬方又ざえもんさんのことなどをくわしくわかりやすく、写真でおしえてくれました。

ほう木先生が帰って、こころざしを発表しました。わたしは、きちょうしすぎて少しかんだりして、うまく話せないまま終わりました。みんなのこころざしが知れてよかったです。わたしはもう少し大きい声が出せたらなと思っていました。とうじゅかるたでは、ふだのことばがほとんど言えるようになったのでいっぱいおれしました。人数が多ければ多いほどふだのとる数はへるなと思いました。今日のりっし祭は、すごく楽しかったです。自分の立てたこころざしをあきらめずにがんばっていききたいです。

「志を立て」

今田 ゆの

わたしは、とうじゅ先生のことを勉強してきて、とうじゅ先生のやさしさ、礼儀の正しさ、かしこ

さ、すごさなどいろいろなことをしました。

立志祭の発表のとき、自分のしょう来のゆめをかなえるために、これからもっとど力やいろいろ学びたいです。これからも、ゆめをあきらめずにがんばりたいです。しょう来のゆめもそうだけど、とうじゅ先生のようにやさしい心を持ちたいです。これからもっと、「ぼうげんしんしちやうし貌言視聴思」を意識してがんばっていききたいです。

「立し祭」

海東 みらん

わたしは、今日立し祭をして、一番心にのこったのは、ほうきさんのお話で、うまかまたざえもんさんの話です。理由は、わすれ物を届けに行った事、えのき（わに）まで行ったのは知っていました。たが、地図を見て、くわしく見れてここから何kmか、どんな道のりかを、とてもくわしく知れたからです。とうじゅカルタ大会の時も、「めんどうとも おもわずえのきへ またざえもん」の時、うまかまたざえもんさんの事を思いうかべながら、取ることができてよかったです。わたしも、「ぼう言、視、ちやう、思」ができるようになりたいです。

「立志祭」

谷口 七のすけ

ぼくは、とうじゅ先生のお話を聞

くのが楽しみでした。話を聞いていたらとうじゅ先生のことがいっぱい分かってきました。人はだれでも美しい心をもっているという言葉はすてきな言葉なんだなあと思いました。こころざしの発表では、きんちようしたけど自分のこころざしをしっかり発表できたのでよかったです。こころざしに向かつてど力してがんばっていききたいです。

「立志祭」

ひろ田 さや

三月八日に立志祭がありました。わたしはその日が来るのをワクワクしながらまわっていました。ついにその日がきました。さいしよにとうじゅ先生の歌を歌って、その次にほうき先生のお話を聞きました。そのお話を聞いて、とうじゅ先生はだれにでもやさしくて、きそく正しい生活をして、美しい心を持っている親切な人なんだなと思いました。

わたしが立志祭で一番心にのこったのは、自分のしょう来のゆめ・こころざしの発表です。わたしのゆめは薬ざいしです。薬を作っているいろいろな人たちを助けたいからです。かなうかわからないけど、ゆめに向かつてがんばりたいです。

中江藤樹記念館通信 ⑭

中江藤樹記念館来館者の紹介

(統計資料から)

理事 武田 基裕

高島市安曇川町上小川六十九番地にあります「近江聖人中江藤樹記念館」には市内外、県内外からたくさんの方々が訪問くださいます。今回の記念館通信⑭では、来館者の都道府県別内訳や県内自治体別内訳等を簡単にご紹介します。ご覧いただければ幸いです。

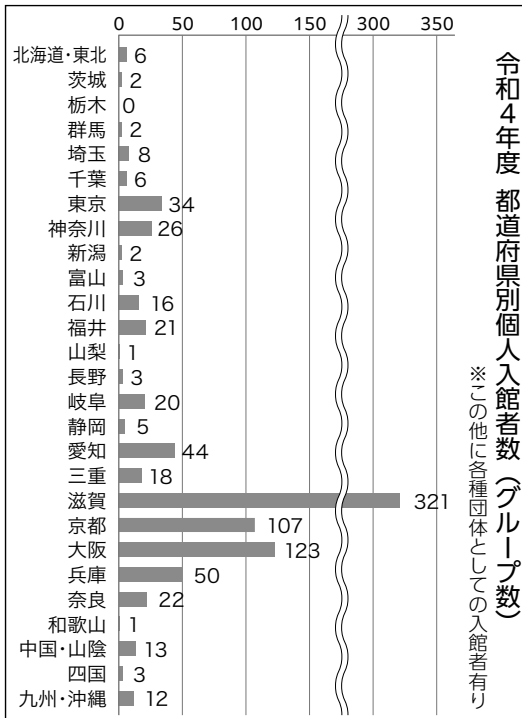
意外！ 他府県の方々もたくさん訪問されます！【資料①】

来館くださる方々で最も多いのはやはり地元滋賀の方々です。やはり郷土の先達である中江藤樹に

親しみをもつてくださっているのでしょう。一方、他の都道府県からもたくさん来館くださいます。勤務して初めて知る「意外な事実」です。それまでは、大半が県内及び関西の方々として認識していました。

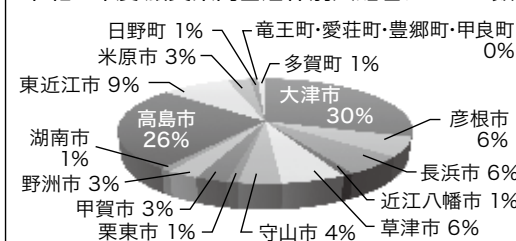
資料は人数ではなくグループ数(個人での来館者)ですが、滋賀以外の近畿や中部、関東の方々も多く訪問され、嬉しいかぎりです。旅行の行程に滋賀が位置することもあるのですが、これほど日本各地域から多くの方々が藤樹を慕って来館くださっていることには驚かされます。ありがたいことです。

この三年間はコロナ禍もあり、それ以前の入館者数にはもどりきれていませんが、それでも令和四年度は前年度の百四十五%の入館



【資料①】

令和4年度 滋賀県内自治体別入館者グループ数



【資料②】

者数でした。本施設は来館者の方にご希望をお聞きし、リクエストがあれば職員が中江藤樹や展示物等の説明を行っています。これが大好評で、リピーターの方がたくさん訪問くださったり、新しい団体やお友達等をお連れくださったりしている嬉しい状況です。

やはり、地元高島市や近隣の大津市の方がたくさん訪問されます！

県内来館者のお住まいを自治体別に紹介します。【資料②】

やはり施設に近い高島市と大津市でおおよそ六十%近くを占めています。令和四年度は東近江市からたくさんの方が訪れてくださったことも特徴の一つでした。あとはおおよそ自治体の人口に比例して来館くださっています。今後は、湖東地域や湖北地域等からの訪問者も増やし、中江藤樹を知り、より広く、深く学んでいただくことが大切だと思います。

賛助会員一覧

ご協力ありがとうございます。

- ウェストレイクホテル可以登楼
- 税理士法人 淡海総合会計
- 大津公証人会 白髭博文
- 大溝工業株式会社
- 株式会社 大山建設
- 岡本アルミ建材株式会社
- 川島酒造株式会社

- 川島織布株式会社
- 株式会社 Grow-S
- 株式会社 桑原組
- 有限会社 宏和商事
- 税理士法人 小畑会計事務所
- 株式会社 才川食品店
- 佐治タイル株式会社
- 株式会社 澤村
- 株式会社 シグマックス
- 清水安三記念館
- 有限会社 白浜荘
- 新旭電子工業株式会社
- 杉橋建設株式会社
- ソエダ株式会社
- 高島鋳建株式会社
- 田中マネジメント事務所
- 株式会社 TADコーポレーション
- 鉄屋商事株式会社
- 寺子屋まなざし童心塾
- 有限会社 天平フーズ
- 株式会社 戸井薬局
- とも栄 藤樹街道本店
- 株式会社 ナカサク
- ナカシヨウ株式会社
- 株式会社 中田運送
- 株式会社 中村測量設計
- ニッケイ工業株式会社
- 八田建設株式会社
- 有限会社 馬場塗装
- 富士包装紙器株式会社
- 戸次会計事務所
- 株式会社 ホリゾン
- 有限会社 丸三旅館
- 株式会社 ヨシダヤ
- 株式会社 リンクス
- 有限会社 綿庄食品店

(五十音順)